

File.2

秘書がコロコロ替わる議員にご注意を

文 鈴木 正人 text by Masato Suzuki

国会議員の秘書が次々と入れ替わっていく事務所がある。つい先日新しい秘書が挨拶代わりに名刺交換したと思ったら、数か月後には次の新しい秘書が挨拶に、なんて所も見かける。

私も国会議員の秘書経験者だが、意外と議員秘書へのハードルは低い。国外と給与が支給される公設秘書でない「私設」秘書なら就職もさほど難しくはない。

今から25年前、当時私はお笑い芸人を目指し、貧乏暮らしをしていたことがある。

銭湯にいくお金がなければ行水するような共同トイレ風呂なしのアパート生活だった。

議員会館での面接の時、政策の話など一切聞かれず、聞くも涙の私の話に



代議士が食いつき「今時珍しい苦労人だ。地元の秘書にええな。その代わり給料や休みの事はとやかくいわんな？」と聞かれ、思わ



*Profile*  
1968年東京都生まれ 大学卒業後芸人を目指すも挫折。  
1993年河村たかし(現・名古屋市長)代議士秘書、その後上田きよし(現・埼玉知事)代議士秘書を経て、1996年27歳で志木市議会議員に初当選。  
2005年埼玉県議会議員に初当選。市議会3期、県議会4期を務め、政治を身近にわかりやすくしたいと地元で「やわらかまじめ新聞」を定期的に発行している。

ず「3食飯が食べればそれでいいです」と答えたら、その場で採用が決まった位だ。

現在では、働き方改革が叫ばれブラック企業が問題となり、秘書達をこき使えば、すぐに事務所を辞めてしまう。

実は私の地元は「このハゲー！」で名をはせた豊田真由子前代議士のいた選挙区で、彼女の秘書がコロコロ替わる事に支持者や周りの人達は首をかしげていた。とはいえ、我々や支持者に對してとても愛想が良く、東大・ハーバード卒の元官僚という華麗な経歴もあったので、多少仕事に厳しい人程度にしか思っていなかった。なのであの音声がワイドショーから流れるたびに何よりも驚愕したのは地元の有権者達だった。

そして田中眞紀子元代議士の秘書に對する暴言も有名な話だ。当初は作り

話だと擁護する声もあったが、外務大臣になっても周囲から同様の声が上がリ、一気に人気は急落した。

政治家としての思いやり、包容力は一番身近な秘書に反映される。どんなに支持者やメディアの前では良人を取り繕っても、秘書がコロコロ替わっていく議員は人を大事にしない。

裏の顔を持っており、とても国や地方の舵取りなど任せられない人物なのだ。

来年は統一地方選挙、参議院選挙があるが、裏表ある人物を見抜くには、そのへんを一考にして議員を観察してみることをお勧めしたい。